

2020年の輸送需要予測

2020年の予測値は、前提とした社会経済条件の不確定性等から、あくまで「参考値」として算出した。

1. 予測の方法

(1) 国内輸送

国内旅客

自動車と航空の輸送人数は、2010年の予測結果と1997年の実績値から算出される輸送人数/人口のGDP弾性値を、鉄道と旅客船の輸送人数は2010年予測結果の輸送人数/人口を2020年の将来の推定人口に乗じて予測した。

また、各輸送機関別輸送人キロは、2010年の予測結果から平均輸送距離を求め、予測した輸送人数に乗じて予測した。

国内貨物

各輸送機関別輸送トン数は、輸送機関別に2010年の予測結果と1997年の実績値から設定したGDP弾性値をもとに2020年を予測した。

また、各輸送機関別輸送トンキロは、2010年の予測結果から平均輸送距離を求め、予測した輸送トン数に乗じて予測した。

(2) 国際輸送

国際旅客

国際航空旅客、国際海運旅客とも、2010年の予測結果と1997年実績値から算出させるGDP弾性値をもとに、2020年を予測した

国際貨物

国際旅客と同様に、国際航空貨物、国際海運貨物とも、2010年の予測結果と1997年実績値から算出されるGDP弾性値をもとに、2020年を予測した。